

河川・海岸構造物の復旧における景観配慮の手引き

（別冊） ケーススタディ地区における景観配慮例

平成23年11月

国土交通省 水管理・国土保全局

目 次

(1) ケーススタディ地区の設定..... 別冊-2

(2) ケーススタディシートの整理の方法..... 別冊-3

(3) ケーススタディシート

 A地区..... A-1

 B地区..... B-1

 C地区..... C-1

 D地区..... D-1

 E地区..... E-1

 F地区..... F-1

河川・海岸構造物の復旧における景観配慮の手引き

(別冊)ケーススタディ地区における景観配慮例

本書は「河川・海岸構造物の復旧における景観配慮の手引き」の別冊として、本編「3. 河川・海岸構造物の復旧における景観配慮方法」で示した内容を現場に適用する場合のケーススタディの事例を示している。

被災した地域に典型的に存在する地形や背後地の利用等をもとに6つのケーススタディ地区を設定し、それぞれの地区の条件に即した具体的な景観配慮の事例を検討している。

また、各事業者が施設復旧をする際の判断を支援するため、各事例について景観面から見た特徴及び評価を整理している。

なお、個々の地区における事例は、実際の現場での復旧計画を示すものではない。

（１）ケーススタディ地区の設定

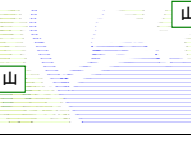
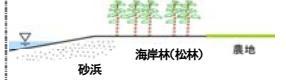
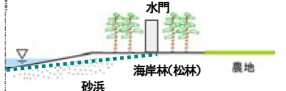
ケーススタディの6地区は、海岸地形の分類、背後地の状況、河口部の有無等から判断して設定している。

海岸地形においては、三陸沿岸に代表されるような「リアス式海岸」と仙台湾沿岸に代表されるような「砂浜海岸」に分類した。また、背後地の状況については、農地、市街地、海岸林、潟湖など偏りがないように区分するとともに、河口部の有無や水門設置の有無のバランスを考慮して地区設定した。

各地区における検討対象施設、景観配慮のポイント、検討対象パターン、主要な視点場を以下に示す。

検討対象パターンは、堤防の線形・位置の違いによる景観への影響が大きいことから、主に A：原位置で復旧した場合、B：引堤した場合を設定している。また、主要な視点場は、各地区の状況に応じて、①天端、②海側（砂浜）、③陸側（背後地）及び鳥瞰とし、検討対象パターンごとに景観面から見た特徴・評価を整理している。

表. ケーススタディ地区の設定

地区	区 分		検討対象施設	景観配慮のポイント	検討対象パターン	主要な視点場		
						①天端	②海側	③陸側
A	地形:リアス式海岸 背後地:農地等 河口部:有(水門)		・海岸堤防 ・水門	・山付き部における海岸堤防の位置・線形設定の工夫 ・引堤による自然地形に応じた本来の生態系の保全・復元への配慮 ・水門デザインへの配慮	A:原位置復旧+水門	●	●	●
					B:引堤+水門	●	●	●
B	地形:リアス式海岸 背後地:海岸林・海岸湖沼 河口部:有		・海岸堤防	・重要拠点(海浜公園)の景観形成	A:原位置復旧	●	●	
					B:引堤	●	●	
C	地形:離水海岸部 背後地:道路・市街地等 河口部:無		・海岸堤防(道路)	・道路・市街地との一体性の確保	A:原位置復旧	●	●	●
					B:堤防と道路の一体整備	●	●	●
D	地形:砂浜海岸 背後地:海岸林 河口部:無		・海岸堤防	・連続する単調な海岸堤防への工夫 ・景観誘導の工夫	原位置復旧	●	●	●
E	地形:砂浜海岸 背後地:海岸林 河口部:有(水門)		・海岸堤防 ・水門	・引堤による自然地形に応じた本来の生態系の保全・復元への配慮 ・引堤による海岸堤防の見えの軽減 ・海岸堤防と水門のすり付け部の工夫	A:原位置復旧+水門	●	●	
					B:引堤+水門	●	●	
F	地形:砂浜海岸(砂嘴) 背後地:潟湖 河口部:無		・海岸堤防(道路)	・重要拠点(観光コース)の景観形成	原位置復旧(堤防と道路の一体整備)	●	●	

（２）ケーススタディシートの整理の方法

ケーススタディは、以下に示すフローに従い、各項目ごとにシートとして整理した。

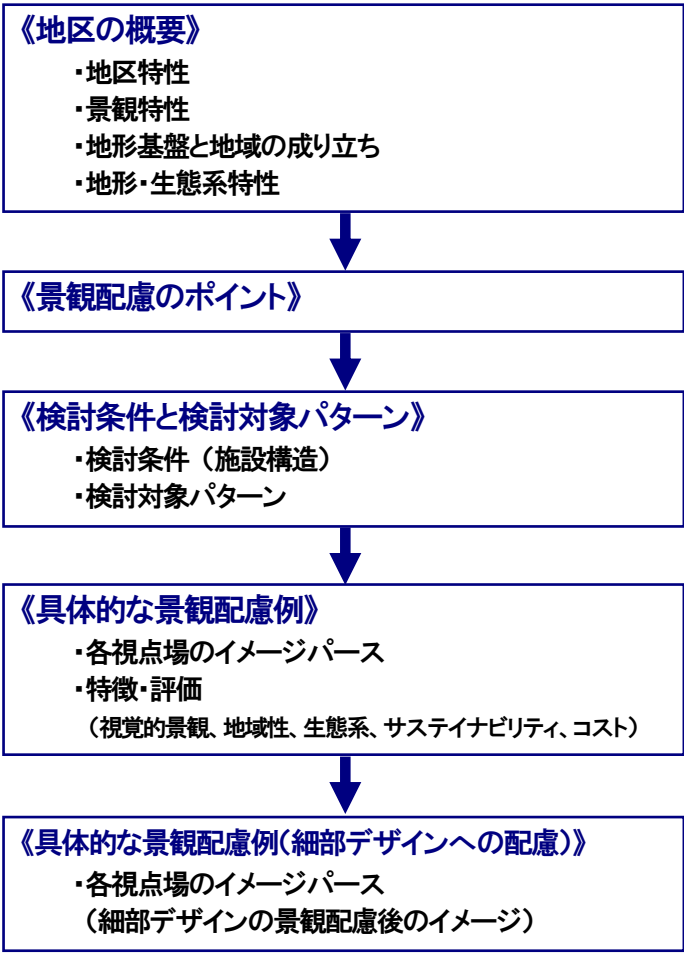
《地区の概要》では、景観を検討する上で重要な地区特性、景観特性、地形基盤と地域の成り立ち、生態系等について、被災前後の状況等を踏まえて図面等で視覚的に整理し、景観構造上重要な事項を記述している。

《景観配慮のポイント》では、地区の概要を踏まえ、景観を検討する上で特に配慮すべき内容を整理している。

《検討条件と検討対象パターン》では、与条件として、設計津波の水位等から設定される堤防の高さ、堤防の基本構造等を示すとともに、景観検討上の復旧パターンとして、原位置及び引堤した場合等のイメージを整理している。

《具体的な景観配慮例》では、検討対象パターンごとに、各視点場のイメージパースに景観形成における良い点、悪い点、配慮事項を吹き出しで示している。また、それらの特徴・評価を5つの視点から記述している。

《具体的な景観配慮例(細部デザインへの配慮)》では、より具体的な細部のデザインを反映させたイメージパースと景観配慮事項を示し、各事業者が施設復旧をする際に判断しやすい基礎資料として整理している。



(3) ケーススタディシート

A地区		A-1
B地区		B-1
C地区		C-1
D地区		D-1
E地区		E-1
F地区		F-1

